

目次

田上時子のエッセイ 政治とメディア・リテラシー.....	1
特集 バーバラ・ベインさんの CIRCLES とカナダの虐待防止プログラム .....	2~3
活動報告 2005 年度総会報告.....	4
助成金による事業 非暴力アクション・ワークショップ.....	4
中高生向け メグさんの性の健康教育.....	5
リレーエッセイ 大森麻里/近藤早百合.....	6
講座インフォメーション.....	7
会員の紹介・入会のおさそい.....	8
編集後記.....	8

田上時子のエッセイ

政治とメディア・リテラシー

9・11の総選挙は「自民党の圧勝」に終わった。新聞の世論調査などで何となく悪い予感があったが、テレビで流れる自民・民主それぞれ党首による15秒のCMを見たとき、決定的だと思った。

ちょうど46年前の9月11日、アメリカで初めて行われたリチャード・ニクソンとジョン・F・ケネディの大統領選のテレビ討論についての議論を思い起こした。

髭もそらずメーキャップもしなかったニクソンはケネディに向かって話しかけていたのに比べて、ケネディはかなり日焼けをしており、直接カメラに向かって話していた。服装、姿勢、しぐさ、目の動き、声の調子。テレビに映るイメージが大統領を決めた瞬間であった。

“The Medium is the Message”（メディアはメッセージである）と言ったのは、「メディアの父」と呼ばれたマーシャル・マクルーハンであった。1950年代からコミュニケーションの本質を出発点として、マスメディアの未来について精密な考察を加えた結果、今日のインターネット社会の到来を科学的に予想した。

「メディアはわれわれのどんな部分にも触れ、影響を及ぼし、変えてしまう。メディアは感覚のすみずみまで触れるマッサージのようである」と言い、特に「テレビの力」について、「テレビでは、イメージが視聴者に向かって投影される。視聴者自身がスクリーンであり、イメージが視聴者を包み込む。視聴者が消失点である」と述べている。

今回、自民党を支持した層は都市の無党派層でテレビを見る頻度が高く、メディアの影響を受けやすい人たちであった。テレビが政治的意味を持つ今、メディア・リテラシー（メディアを読み解く）能力が必要となる。同時に現実を構成する立場にあるメディア側もそれを意識して欲しい。

それにしても、民意が決めた自民党の勝利を受けて、この国はどこへ行こうとしているのか。理屈上は自民党のやりたい放題、どんな法案も通せる。来年の9月のポスト小泉政権いかなでは、平和憲法も男女共同参画基本法も危うい。

恐ろしい本当の姿が、わたしたちの目にも、だいいに見え始めてきている。